

## 日本神話：禊

生者の国に戻ったイザナギは、黄泉の穢れを洗い流そうとしました。彼は服を脱ぎ去り、水に浸かって体を清めました。脱ぎ捨てられた服から新たな神々が生まれ、またイザナギが身を洗うことでさらに多くの神々が生まれました。最後に顔をこすった際、神道の神々の中で最も重要な3柱が現れました。イザナギの左目から生まれた太陽の女神・アマテラス、右目から生まれた夜の主である月の神・ツクヨミ、鼻から生まれた海と嵐の神・スサノオです。これらの神々の誕生により、天地開闢の神話は締め括られます。

日本で最初に書かれた文献である古事記には、イザナギの禊は日向国（現在の宮崎県）で行われたと記されています。日向は南東のはるか彼方に位置しており、日の出に最も近い場所、ひいては神々の国に最も近い場所だと考えられていたため、8世紀の学者たちが当時の都である奈良で日本神話を編纂した際に日向を舞台に選んだのではないのでしょうか。このような太陽との結びつきは、その地名にも表れています。日向は、現代以前の日本で唯一「日」の文字が入った国でした。

禊は、神道における中心的な儀式であり、礼拝の前に心と体の両方を清めるために行われます。神社では、入り口で手と口を洗うことで禊を行います。